

- 問1 白河上皇が始めた新しい政治の仕組みについて、その特徴や目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--------------------------------------|
| 1. 地方の治安を維持するために、全国に守護や地頭を設置して武士を統制した。 | 2. 上皇が独自の役所を設けて実務官僚や武士を集め、摂政や関白を介さずに政治を行った。 | 3. 律令制度を完全に廃止し、天皇が一切の政治に関与しない象徴的な体制を確立した | 4. 藤原氏との結びつきを強めることで、摂政や関白の地位を世襲化させた。 |
|--|---|--|--------------------------------------|
- 問2 国風文化が全盛期を迎えた平安時代中期の社会について述べた文として、正しいものはどれですか。 (2021年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 1. 津田梅子らが女子教育の普及に努め、欧米の文化を取り入れた文明開化が進んだ。 | 2. 雪舟による水墨画が完成され、銀閣に代表される東山文化が栄えた。 | 3. 松尾芭蕉が俳諧を大成させ、都市の町人を中心とした元禄文化が発展した。 | 4. 紫式部などの女流作家が活躍し、貴族の屋敷は寝殿造と呼ばれる様式で建てられた。 |
|--|------------------------------------|---------------------------------------|---|
- 問3 10世紀頃、律令制による戸籍に基づいた支配が困難になったことを背景に、朝廷が地方の統治や徴税の権限を大幅に委ねるようになった、現地の最高責任者にあたる役職を何と呼びますか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 国司 | 2. 守護 | 3. 郡司 | 4. 地頭 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問4 平安時代末期、現在の岩手県平泉町を拠点に栄えた奥州藤原氏は、北上川流域などで産出されるある鉱産資源を背景に、京都の文化とも異なる独自の仏教文化を築きました。中尊寺金色堂などの豪華な建築物にも象徴され、当時の重要な輸出品でもあったこの鉱産資源は何ですか。 (2018年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 金 | 2. 銀 | 3. 銅 | 4. 鉄 |
|------|------|------|------|
- 問5 平安時代中期に藤原氏が「摂関政治」を完成させ、長期にわたって権力を維持できた理由として、最も適切な背景はどれですか。 (2025年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 天皇の母方の祖父という立場を確保し、天皇との血縁関係を極めて強く保持し続けたから。 | 2. 「武士の気風」を尊ぶことで、新興の武士階級と協力して地方の反乱を鎮圧したから。 | 3. 班田収授の法を厳格に運用し、全ての農民に土地を均等に配分することで税収を安定させたから。 | 4. 律令に基づき、地方の国司を武士の中から選ぶことで、軍事的な統制力を高めたから。 |
|--|--|---|--|
- 問6 8世紀末に平安京へと都を移した桓武天皇が、地方政治を立て直すために実施した政策として最も適切なものはどれですか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 検非違使を設置して、都の治安維持や裁判の迅速化を図った | 2. 班田収授法を完全に廃止し、農民から直接税を徴収することをやめた | 3. 勘解由使という役職を設け、国司の業務の引き継ぎを厳しく監督させた | 4. 墾田永年私財法を制定し、新しく開墾した土地の永久私有を認めた |
|--------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
- 問7 平清盛は、自らが太政大臣に就任して権力を掌握した後、かつての摂関政治にならった方法で政治的な基盤を固めました。清盛が行った、天皇との関係を強化するための手法として最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1. 院政を行う上皇を幽閉し、武士独自の新しい法律を制定して全国を統治した | 2. 娘を天皇の妃とし、その間に生まれた子を天皇に即位させて外戚となった | 3. 全国の武士と主従関係を結び、土地の所有権を保証する代わりに軍役を課した | 4. 遣唐使の派遣を再開し、大陸の進んだ政治制度を積極的に導入した |
|---------------------------------------|--------------------------------------|--|-----------------------------------|
- 問8 平安時代、地方の有力者は自ら開墾した土地を確実に所有し、国司からの課税を逃れるために、中央の有力な貴族や寺社に土地の権利を譲り渡しました。このように、寄進を受けることで成立・拡大した私有地を何と呼びますか。 (2023年 香川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|---------|---------|----------|
| 1. 寄進地系荘園 | 2. 地租改正 | 3. 公地公民 | 4. 班田収授法 |
|-----------|---------|---------|----------|
- 問9 平安時代中期に藤原道長が摂政に就任したことで全盛期を迎えた、藤原氏が天皇の代理や補佐として実権を握る政治形態を何といいますか。 (2017年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|---------|---------|-------|
| 1. 親政 | 2. 摂関政治 | 3. 幕府政治 | 4. 院政 |
|-------|---------|---------|-------|
- 問10 山口県の壇ノ浦の戦いで滅亡した平氏が、その全盛期に中国の王朝と行っていた貿易（日宋貿易）の内容について正しく述べたものはどれか、次から選びなさい。 (2022年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 元（モンゴル）からの朝貢の要求を拒否し、民間人による非公式な取引のみを継続した。 | 2. 朝廷の許可を得ずに、キリスト教の布教を認める代わりに鉄砲を輸入する貿易を行った。 | 3. 倭寇による略奪を防ぐため、勘合（かんごう）と呼ばれる札を用いた貿易を行った。 | 4. 日本からは金や木材などを輸出し、宋からは陶磁器や大量の銅銭などを輸入した。 |
|---|---|---|--|
- 問11 平安時代末期の外交と社会に関する記述として、正しいものはどれですか。 (2017年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 藤原頼通が遣唐使を廃止したことで、日本独自の国風文化が大きく発展した。 | 2. 織田信長が大輪田泊を修築したことで、堺の商人と連携した自由な取引が始まった。 | 3. 北条泰時が大輪田泊を拠点に貿易を行い、得られた利益で御成敗式目を制定した。 | 4. 平清盛は大輪田泊を整備し、宋から輸入された貨幣が国内に流通するきっかけを作った。 |
|--|---|--|---|
- 問12 11世紀後半に白河上皇が「院政」を開始した背景や目的を説明したものとして、最も適切なものを選択してください。 (2017年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 平城京から平安京への遷都をスムーズに進めるために、仏教勢力の政治介入を排除するため。 | 2. 藤原氏などの摂関家が代々実権を握る政治を抑え、天皇家の主導権を取り戻すため。 | 3. 足利義満が行った日明貿易に対抗し、天皇自身が中国（宋）との直接貿易を行う権限を得るため。 | 4. 平清盛ら武士の勢力を抑えるために、東北地方の蝦夷と手を結んで軍事力を強化するため。 |
|---|---|---|--|
- 問13 平安時代の浄土信仰が当時の美術や建築に与えた影響について、「阿弥陀仏」と「極楽浄土」という言葉を用いて説明した文として適切なものはどれですか。 (2016年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 唐から伝わった最新の様式を取り入れ、極楽浄土よりも現世での利益を重視する阿弥陀仏の彫像が数多く作られた。 | 2. 阿弥陀仏を信じる特定の有力者のみが極楽浄土へ行けるとされたため、閉鎖的な寺院建築が主流となった。 | 3. 極楽浄土の様子をこの世に再現しようとして、阿弥陀仏を本尊とする平等院鳳凰堂などが建立された。 | 4. 阿弥陀仏の教えを否定し、厳しい自然の中で修行することで極楽浄土へ行けると説く山岳信仰が美術に反映された。 |
|---|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 上皇が独自の役所を設けて実務官僚や武士を集め、摂政や関白を介さずに政治を行った。	院政では、上皇の居所に「院庁（いんのちよう）」という独自の役所が置かれ、そこから下される命令（院宣など）が国政を動かしました。また、院の警護のために「北面の武士」を組織するなど、独自の軍勢力や経済基盤を持つことで、既存の摂関政治の枠組みに縛られない権力構造を構築しました。
問2	答え 4 紫式部などの女流作家が活躍し、貴族の屋敷は寝殿造と呼ばれる様式で建てられた。	平安時代中期の国風文化では、かな文字による文学だけでなく、建築面でも日本の気候に合わせた「寝殿造」という貴族の住居様式が発達しました。選択肢にある水墨画は室町時代、俳諧は江戸時代、女子教育の普及は明治時代の出来事であり、時代が異なります。
問3	答え 1 国司	律令制のもとでは戸籍に基づいて班田収授が行われていましたが、10世紀頃にはその仕組みが崩れ、徴税が困難になりました。そこで朝廷は、地方政治の実情に合わせて、徴税や統治の責任を現地の最高責任者である国司に大幅に委ねる方針へと転換しました。これにより、国司は地方において非常に強い権限を持つようになりました。
問4	答え 1 金	奥州藤原氏は、領内から産出される豊富な「金」を経済基盤として、平泉に中尊寺や毛越寺などの壮麗な寺院を建立しました。この金は当時の日本における重要な交易品であり、平泉から京都へ送られただけでなく、大陸の宋（中国）への輸出にも使われ、奥州藤原氏の強大な権力と富の源泉となりました。
問5	答え 1 天皇の母方の祖父という立場を確保し、天皇との血縁関係を極めて強く保持し続けたから。	摂関政治の最大の特徴は、藤原氏が天皇の「外祖父（母方の祖父）」になることにあります。当時の慣習では子供は母親の実家で育てられることが多かったため、母方の祖父は天皇に対して強い影響力を持つことができました。藤原道長はこの仕組みを最大限に利用し、娘たちを次々と天皇に嫁がせることで、揺るぎない権力基盤を構築しました。
問6	答え 3 勘解由使という役職を設け、国司の業務の引き継ぎを厳しく監督させた	桓武天皇は、律令政治の立て直しを重視しました。当時、地方を治める国司の不正が問題となっていたため、新旧の国司が交代する際の業務報告を厳しくチェックする「勘解由使（かげゆし）」を設置しました。これにより、地方行政の引き締まりを図りました。
問7	答え 2 娘を天皇の妃とし、その間に生まれた子を天皇に即位させて外戚となった	平清盛は、武家政権の先駆けでありながらも、その権力掌握の手法は藤原氏の摂関政治に近いものでした。具体的には、娘の徳子（建礼門院）を高倉天皇の妃に入れ、その間に生まれた安德天皇を即位させることで、天皇の祖父（外戚）として強い発言権を持ちました。このように、朝廷の最高職である太政大臣の地位と、天皇との血縁関係の両面から権勢をふるいました。
問8	答え 1 寄進地系荘園	律令制の基本原則であった「公地公民」が崩れる中で、開墾した土地を私有地（荘園）とする動きが活発になりました。地方の有力者は、中央の権力者に土地を「寄進」し、その保護を受けることで、国司による徴税や立ち入りを拒む権利を得て、実質的な支配を維持しようとした。
問9	答え 2 摂関政治	藤原氏は、天皇が幼少のときは「摂政」、成人してからは「関白」という官職に就くことで政治の実権を握りました。道長とその子である頼通の時代にその力は絶頂に達し、娘を次々と天皇の后（きさき）にすることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として強い影響力を行使しました。
問10	答え 4 日本からは金や木材などを輸出し、宋からは陶磁器や大量の銅銭などを輸入した。	日宋貿易において、日本からは金、銀、木材、刀剣などが輸出され、宋からは絹織物、陶磁器、そして当時の日本に大きな影響を与えた宋銭（銅銭）などが輸入されました。勘合貿易は室町時代の足利義満によるもの、鉄砲の伝来は戦国時代、元との関係は鎌倉時代中期以降の出来事です。
問11	答え 4 平清盛は大輪田泊を整備し、宋から輸入された貨幣が国内に流通するきっかけを作った。	平清盛が行った日宋貿易では、日本から金や水銀などが輸出される一方、宋からは陶磁器や書籍、そして「宋銭」と呼ばれる銅銭が大量に輸入されました。この宋銭が日本国内で流通したことにより、それまでの物々交換中心の経済から、貨幣を用いる経済への変化が促されました。
問12	答え 2 藤原氏などの摂関家が代々実権を握る政治を抑え、天皇家の主導権を取り戻すため。	平安時代中期まで続いた藤原氏による摂関政治は、天皇との血縁関係（外戚）を基盤としていました。白河上皇は、天皇が位を退いて自由な立場の上皇となることで、摂関家の影響を受けずに独自の役所（院庁）で政治を執り行う体制を整えました。これにより、政治の主導権を摂関家から天皇家側へと引き戻すことに成功しました。
問13	答え 3 極楽浄土の様子をこの世に再現しようとして、阿弥陀仏を本尊とする平等院鳳凰堂などが建立された。	藤原頼通によって建立された宇治の平等院鳳凰堂は、当時の人々が憧れた極楽浄土の光景を表現した代表的な建築です。建物の中央には本尊である阿弥陀如来（阿弥陀仏）像が安置されており、浄土信仰が当時の貴族の美的感覚や建築文化に多大な影響を与えたことを示しています。